

宿縁

一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺
TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

「適う」と「叶う」は
意味が違う



新しい年を迎えました。
さあ、「仏法のこと」は 急げ急げ」
油断なくお念仏の大道を歩みましょう。
岩もあり 木の根もあれど
さらさらと
たださらさらと 水の流るる
これは、京都女子大学創設者であり、念仏者として高名な甲斐和里子(かいわりこ)先生の詩です。
相変わらず、年の始めは願いごとを叶える

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺
TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

ための初詣の風景と、世界の動向や景気の見通しなどの期待と不安の情報が溢れて落ち着きません。また、グローバルリズムによる貧富の格差や歪みの現象、自分ファーストといわれる自分第一主義、IT(人工知能)の到来やネット社会が招く人間不信など、激しい時代の変化を冷静に捉え対処することが求められます。

お寺の近くを流れる江戸川の土手はすばらしい散歩コースです。黙々と歩きながら色々なことが目に映り、頭に浮かぶ至福の時間帯です。

先の詩は、江戸川の源流を思い辿りつつ、成程なるほどと味わうことができます。

川の水は、岩や木の根っこ等の障害があっても、川上から川下そして海へと流れて行きます。水には決まった形が無いから、自由自在にさらさら流れて行きます。私たちの人生にも、色々な難問・苦難・災難という障害があります。でも水のように、障害を障害とせず、その時その時の場面を避けることもなく、また反対に突っ張ることも無しに、柔軟に生きて行かなければならないと思います。

私たちはややもすると、この世を無事なもの、平穏なものと思っているから、偶々苦しいことに遭うと、自分だけがと思えます。生きていけば、障害物が沢山あります。「あれが嫌、これが無ければ」というのが私たちの生活でありますが、その時の状況に自分を合わせていけば、障害を障害としない人生が開けましょう。

甲斐和里子先生は、念仏の生活全体を溪流の流れに例えられました。岩や木にも相当する、さまざまな障害に、次々に遭遇するのが人生です。けれども、念仏に生かされているからどんな障害に当たっても、溪流の水がさらさらと流れていくように、念仏に力づけられ、よるこびのなかに人生を送ることができると教えてくださいます。

皆さんは「福助人形」をご存知でしょうか。幸福を招くとされる縁起人形ですが、袴姿で正座をした男性で、大きな頭とちょんまげが特徴です。

「元々は、文化元年頃から江戸で流行した福の神の人形叶福助。実在した人物と言われており、摂津国(大阪)西成郡の佐太郎がモデルである。身長二尺足らずの大頭の身体障害者であったが、近所の笑いものになることを憂いて他行を志し、東海道を下る途中、小田原で香具師にさそわれ、生活の途を得て、鎌倉雪の下で見せ物に出たところ、評判が良く、江戸両国の見せ物に出された。江戸でも大評判で、不具助をもじった福助の名前を佐太郎に命じたところ、名前が福々しくて縁起が良いと見物は盛況であった。見物人のなかに旗本某の子がいて、両親に遊び相手に福助をとせがんで、旗本某は金三十両で香具師から譲り受け、召し抱えた。それから旗本の家は幸運続きであるのでおおいに寵愛され、旗本の世話で女中の「りき」と結婚し、永井町で深草焼をはじめ、自分の容姿に模した像をこし

が私たちの生活でありますが、その時の状況に自分を合わせていけば、障害を障害としない人生が開けましょう。

甲斐和里子先生は、念仏の生活全体を溪流の流れに例えられました。岩や木にも相当する、さまざまな障害に、次々に遭遇するのが人生です。けれども、念仏に生かされているからどんな障害に当たっても、溪流の水がさらさらと流れていくように、念仏に力づけられ、よるこびのなかに人生を送ることができると教えてくださいます。

皆さんは「福助人形」をご存知でしょうか。幸福を招くとされる縁起人形ですが、袴姿で正座をした男性で、大きな頭とちょんまげが特徴です。

「元々は、文化元年頃から江戸で流行した福の神の人形叶福助。実在した人物と言われており、摂津国(大阪)西成郡の佐太郎がモデルである。身長二尺足らずの大頭の身体障害者であったが、近所の笑いものになることを憂いて他行を志し、東海道を下る途中、小田原で香具師にさそわれ、生活の途を得て、鎌倉雪の下で見せ物に出たところ、評判が良く、江戸両国の見せ物に出された。江戸でも大評判で、不具助をもじった福助の名前を佐太郎に命じたところ、名前が福々しくて縁起が良いと見物は盛況であった。見物人のなかに旗本某の子がいて、両親に遊び相手に福助をとせがんで、旗本某は金三十両で香具師から譲り受け、召し抱えた。それから旗本の家は幸運続きであるのでおおいに寵愛され、旗本の世話で女中の「りき」と結婚し、永井町で深草焼をはじめ、自分の容姿に模した像をこし

らえ売りに出し、その人形が福助の死後に流行した。」と伝えられています。

後の人たちは、この福助にあやかろうと願う事が叶えられるようにと店頭などに祀りましたが、実在の佐太郎の一生はそんなものではありません。

佐太郎は自分の境遇を嘆くのではなく、自らの身に引き受けたのです。だから誰にでも身を低く膝の前に両手をついて懇懃に接した姿勢に表れているのです。

「かなう」という表現には「叶う」と「適う」の字があります。「叶う」は、「思い通りに実現する」、「願っていたことがその通りになる」とあります。「適う」は、「条件、基準などによく当てはまる」、「適合する」という意味です。仏教の教えは、どのような場所に置かれても適合する、適応できる「柔軟心」と「金剛心」を得るといふことです。

溪流の水の流れは岩もあり木の根もあれど、とうとうと流れて大海に摂(おさ)め取られます。

川に沿って岸がある
私に沿って本願がある
いつまでも埒(らち)があかない
私に沿って本願がある

(教育者、念仏者東井義雄先生)

江戸川の堤防が川を護るように、どんな時もこの私を護り、間違いなく導いていただくのが阿弥陀如来の本願です。西日に私の影が常に付き従うように、
南無阿弥陀仏を称うれば、影と形のごとくにて 夜昼つねに護るなり
を実感させられます。「撰取不捨」の本願を身に受けてこそがまことの人生なのです。

【寺灯雑記】

○お寺でクリスマスコンサート

12/24

お寺でクリスマスコンサート？
そうなんです。

当寺では平成29年9月から地域の親子が集う場を提供して、子育てサロン「パンダっ子」を1月と8月を除く毎月第2月曜日の1時から2時まで開催しています。

そこに参加されるお母さんの仲間4人で構成するコーラスグループ「ここのりのえん」が「お寺の小さなXマスコンサート」を開きました。

参加した親子連れ約50名を前に「小さな世界、雪だるまを作ろう、Xマスメドレー他」の曲などをピアノ、フルートの演奏、コーラスと一緒に楽しみました。

子どもたちにはサンタさんではなくお寺からお菓子のプレゼントがあり、和やかなコミュニケーションの場が広がりました。

少子化が進み、核家族化や近隣との付き合いが希薄になって子育てに悩む現代社会にあつて、お寺という広い空間は大いに利用されるべきです。1人が2人へ、2人が4人へ、4人が8人へと繋がって、「みんな一緒だよ！」という認識を持つてゆきたいと思えます。皆さまのご支援をお願い申し上げます。

○歳末に有志で清掃奉仕

12/28

いよいよ平成30年も残り少なくなつて新しい年を清々しく迎えようと有志の皆さん10名が集まって奉仕くださいました。いつもお心掛けありがとうございます

○元旦修正会で穏やかな年明け

1/1

元朝は雲一つない穏やかな夜明けとなり、称名念仏とともにスタートしました。

朝8時、元旦修正会の始まりを告げる行事鐘が打ち鳴らされて身の引き締まる雰囲気の中、参詣者とともに正信偈が勤められました。

ご住職と前住さんから年頭に当たつて法話をお聞きした後、みんなにご流盃が注がれ総代の錦織さんの発声で新年への決意を仏祖の前に誓い、祝盃をあげました。

そのあと、会館に移つて丸餅、白味噌仕立ての京都風お雑煮をいただきながら新春の賀詞交歓をいたしました。

○ちびっ子たちが当寺へ初詣

1/4

住職ご夫妻の新発意(しんぼつち)慈愛くん(小学一年生)が通う、市川市内にある放課後等デイサービスのお友だち7人が職員5人の方と初詣に来てくれました。

ご住職と一緒に本堂で重誓偈のお経をお勤めして仏さまのお話をしっかりと聞いていました。慣れないなかでも小さな手にお念珠をかけて、お念仏している姿はとってもかわいかったです。

○当寺の案内パンフレットを作成

当中原寺の概要を載せた色刷りのパンフレットをこのほど2千部作成しました。6面折りの表紙には枝垂桜と本堂前景の写真の下に『心が安らぐ場』お寺とは何でしょう！ 生きているものが、仏教の教えに

よつて、生きる意味と、真の幸せを見出す、万人に開かれた場です』という言葉があります。2面には施設紹介。3面は中原寺の年間行事。4面は浄土真宗について。5面は中原寺の源流と沿革。6面には中原寺までの交通のご案内等。カラーと写真を巧みに配して見事な出来栄です。
どうぞ有縁の方々にご利用いただきたく存じます。

※訂正とお詫び

宿縁12月号の記事で京都大学総長山極寿一氏の名字が山際寿一氏とあり誤りでした。

☆婦人会、壮年会に入りませんか！

当寺の活動組織として仏教婦人会と仏教壮年会があります。婦人会の創設は昭和46年11月に壮年会は昭和56年3月に発会しました。両会とも48年、38年の伝統があり、その間多くの会員たちのお念仏への深い思いと努力によってお寺の活動を支えてまいりました。

時代の変化はあたりまえのことですが、今日の高齢化長寿社会と違つて仕事のこと、家庭のこと社会への関わり方は3、40年前の方が多忙であつたように感じます。

仏法への入門は、この年齢に達したらと世間の仕事が付いてからとかは少しの理由になりません。

仏教は、そして親鸞という方は私たち一人ひとりにすばらしい人生を教えてくださいます。楽しい集いです。新年度からのお仲間入りを募集中です。

(仏教婦人会、仏教壮年会より)

【法座・行事の案内】

○婦人会総会・新年会

* 一月十二日(土) 十一時

正信偈と法話(法然さま)、新年会

○常例法座

* 一月二十日(日) 一時

法話：柏倉学法師(我孫子市真宗寺)

○いのちの居場所を考える会

* 一月二十二日(水) 十時

参加者で「場の思想」を語り合う

○和讃に学ぶ(愚禿悲嘆述懐)

* 一月二十六日(土) 二時

講師：前住職

○壮年会総会・新年会

* 一月二十七日(日) 二時半

○婦人会法座

* 二月二日(土) 一時

テーマ：法語カレンダー2月の言葉

○壮年会法座

* 二月九日(土) 三時

話し合い法座

○東京教区仏壯一泊研修会(石和温泉)

* 二月十七日(日)〜十八日(月)

テーマ「しあわせ・苦」

【一月の掲示板のことば】

今、真新しい いのちに出遇う